



# どうにかする力

泗水小学校だより  
R4. 6. 27 (月)  
No. 11  
校長 工藤竜一

【校訓】 なかよく つよく しんけんに

【学校教育目標】 自立する泗水っ子の育成

～「生きる力＝どうにかする力」を育む教育活動を通して～

## 世界の国の言葉や文化を知り、相互理解の心を育てる（国際理解週間）

6月20日（月）からの1週間は、国際理解週間でした。日常活動として、授業開始・終了の挨拶を英語で行ったり、昼の放送でウクライナ語と中国語のクイズを行って外国語に親しみました。

23日（木）には、国際理解集会をオンラインで行いました。ALTのオレフ先生に、出身国のウクライナの生活スタイルや学校生活の様子などについて紹介していただきました。ウクライナの学校には、制服や給食があるなど、共通することもあるなあと感じました。

3、4年生は週1時間、5、6年生は週2時間の外国語活動・外国語科の授業を行っています。授業を通して、外国語や自国・外国文化に親しむ子どもを育てたいと思います。



「国際理解集会」の様子

## 菊池市特別支援学級「交流遠足」に行ってきました！

6月24日（金）、こすもす学級の子どもたちは、菊之池小の特別支援学級の子どもたちと一緒に、菊池少年自然の家へ交流遠足に行きました。集団活動を通して豊かな情操とたくましい体を養ったり、他校の友達との親睦を図ることを目的に例年実施していますが、昨年度は新型コロナの影響で実施できませんでした。今年度は交流する学校を1校に絞って実施することができました。

菊之池小の子どもたちとの交流会では、初めは自己紹介をためらう子どももいましたが、名刺を交換して交流することができました。その後、「ニジマスつかみ」「竹とんぼづくり」を楽しみました。「ニジマスつかみ」では、泳いでいるニジマスをつかんでナイフでさばき、塩焼きにして食べることで、「いのち」をいただく感謝の心を育てることができました。魚が苦手という子どもが、塩焼きをきれいに食べていました。今回の交流遠足を通して、子どもたちのたくましさや優しさをたくさん見ることで、とてもうれしく思いました。



交流遠足での「名刺交換」の様子

## ☆校長室から独り言9☆

子育ては、周囲の人たちの支えがあってできるもの

この欄に何度か登場させた一人息子のことです。大学卒業と同時に入社した損害保険会社を辞めて転職し、今は、東京で別の会社に勤めています。悩んだうえで決断し、転職したことを中学や高校、大学時代の恩師（すべて野球部の監督）に電話で伝えたそうです。中学時代の恩師は、「新しい仕事で経験がない分は、誠意と熱意でカバーすれば大丈夫。」と励ましてくださいました。高校時代の恩師は、「仕事が続かなかったら熊本に帰ってこい。お前を学校に迎えて野球部の監督を任せるから。」と半分冗談で励ましていただきました。大学時代の恩師は、息子が新しく就職した会社にいる野球部の先輩OBに連絡してくれて、支えてやるように言ってくださったと聞きました。たった2年で転職したことに夫婦が大変心配していましたが、恩師の先生方の温かい励ましや支えに、親としても安心し、感謝の気持ちでいっぱいでした。

小学4年生から大学まで続けた野球のおかげで、多くの指導者や仲間に出会い、今なお支えていただいていることにありがたく思います。子育ては、親だけでできることではないと改めて思います。学校の先生方をはじめ、多くの人の支えで子どもは育つのです。

子育てに悩んだときは、遠慮なく、いつでも学校に相談してください。担任、養護教諭、管理職、またはスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど相談機関や専門機関へつなぐこともできます。様々な人の力を借りながら、子どもたちの成長を見守っていきましょう。